

「資格」という客観的な証明が、顧客との信頼づくりの一助としても機能  
—— 学生時代とは異なる、仕事で使うスキル取得のために導入

日本コンベンションサービス株式会社

1970年の『日本万博博覧会』をはじめ、日本の国際会議運営のパイオニア企業としてさまざまな国際会議や企業イベントの企画・運営を総合的に行う日本コンベンションサービス株式会社。同社では2011年7月に、内定者研修の一環としてマイクロソフト オフィス スペシャリスト(MOS試験)を導入しました。コーポレートスタッフ本部 人材開発部 部長の横田浩子さんと、人材開発部 主任の菅野仁美さんに導入の経緯や反響、その効果などについてうかがいました。

**2011年の内定者研修から導入**

—— 受験者の合格率は100%

日本コンベンションサービス株式会社(以下、JCS)は、日本初のコンベンション運営会社として1967年に創業。以降、国際コミュニケーションを通じて社会の発展に貢献すべく、国際会議や各種学会などの企画・運営をはじめ、通訳・翻訳業務、人材派遣業などの幅広い業務を手がけています。

同社が、マイクロソフト オフィス スペシャリスト(以下、MOS試験)を内定者研修に取り入れたのは2011年の7月。MOS試験の導入は、以前に横田さんがMOS試験を受験していたことに加え、パソコンスキルに対する社内の話がきっかけになっているといいます。

「実際に、入社した新入社員が資料を作成する際にパソコン操作に苦戦しているという話を耳にしましたし、また、以前にOffice製品のアプリケーションの高度な操作スキルを要する部署で、数名の新卒の社員たちがExcel<sup>®</sup>のトレーニングを受けたことがあったのですが、それがとてもためになったという話も聞きました」

こうした社内状況を踏まえ、「パソコンスキルの基礎を学ぶことができ、かつ社会人一步手前の大学生でも受けやすい」ということが内定者研修にMOS試験を導入する決め手になったとのこと。

「これまでも、内定者研修としては簿記などを取り入れてきましたが、JCSではどの部署に配属されてもパソコンスキルは必須。そこで、入社後にパソコンのことでつまづかないよう、入社前にMOS試験を受けてもらうことを決めました」

受験対象となったのはExcelとPowerPoint<sup>®</sup>の2科目。7月の内定者懇談会で会社から試験対策テキストを配布し、11月までに各自で受験する(受験料は会社負担)というスタイルを採ったところ、合格率は100%だったとのこと。

「必ず合格するように、といったプレッシャーになるようなことは一切話していませんでしたが、学生の頃と社会人になってからとではOffice製品のアプリケーションの使い方がまったく違ってきます。入社後にパソコンのスキルが足りないと、仕事を覚えていかなければいけない時期に出鼻をくじかれてしまう。そのような話を内定者にして、“自分自身のためになる”ことを理解したうえで試験に臨んでもらったのですが、全員合格の知らせを聞いたときはとても嬉しかったですね」

**実際の業務で活かせるスキル**

—— 資格取得者の感想

JCSの業務では、Office製品のアプリケーションの使用頻度がかかなり高いと横田さんはおっしゃいます。そんな日常業務のなか、MOS試験の取得で得たスキルはさまざまなシーンで活かされています。

「Excelは各種の集計業務に、Wordは学会等の案内文の作成に、PowerPointはプレゼンの資料づくりに等々と、各アプリケーションは日々の業務で多用します。MOS試験で習得したスキルは、これらの業務を効率的に行うためにとても役立っています。Excelの関数やオートフィルタなどの使い方を知っているのと知らないのとでは、作業時間が大幅に変わってきますし、売上の表を手入力で作成していたときに3時間かかっていたものも、関数を用いれば1時間もあれば作業が完了します。仕事を効率的に進めるための“方法”を知っておけば、どこの部署に配属になっても活かすことができます」

また、同部署の菅野さんが資格を取得した新入社員に感想を聞いたところ、“入社前に取っておいて良かった”という内容が大半だったそうです。

「大学でOffice製品のアプリケーションをかな

日本コンベンションサービス株式会社 <http://www.convention.co.jp/>

所在地 東京都千代田区霞が関1-4-12 大同生命霞が関ビル18階  
従業員数 214人(2012年3月時点)  
1967年設立。国際会議・医学系国際・国内学会や企業イベント、展示会などの総合プロデューサーに取り組んでいる。また、それらに付随する通訳・翻訳業務、コンテンツ制作、人材派遣業なども幅広く行っている。設立以来、「コンベンション」「語学」「人材」という3本の柱を軸に事業を展開。国内事業所は9カ所。

取材ご協力



コーポレートスタッフ本部  
人材開発部 部長  
横田 浩子 さん



コーポレートスタッフ本部  
人材開発部 主任  
菅野 仁美 さん

り使っていた内定者からは、『細かい部分で、知らない機能が多かったことを再認識できた』『資格取得前は知らなかった、差し込み印刷やパスワードのかけ方、オートフィルタなどは業務に大変役立っている』とのことでした。また、『ExcelやPowerPointに対する苦手意識がなくなった』『先輩から頼まれる仕事に対して、やり方がわからなくて質問するようなことなく済んでいる』というような声も。そうした取得者の声を聞くと、入社後にパソコンのスキル不足によって業務が滞る社員はいないようなのでほっとしています

さらにJCSでは、“パソコンは使えて当たり前”という雰囲気があることから独学で勉強している社員も多いとのこと。MOS試験の導入前に入社した先輩社員からは、「自分たちもMOS試験の研修をやってほしかった」という声も挙がっているそうです。

### 内定者研修に導入したメリット

—— 目に見えるスキルの証として

内定者研修にMOS試験を導入した結果、JCSとしてはいくつかのプラスの効果が浮上ってきました。

「MOS試験が内定者研修の素材として優れている点としては、「資格」という確固たるスキル証明を新卒のプロフィールに記すことができる点にあります。例えば、クライアント様から企画書などに担当者の有資格情報やプロフィールの記載提出を求められることがあった際に、資格は目に見えるかたちで“どのようなことができる人なのか”ということを相手に伝えてくれます。また、社内で新しいプロジェクトを立ち上げるときのアサインの判断材料にもなります」

このように、「資格」という客観的なスキルの証明が第三者からの信頼を得るための一助になることに加えて、一人ひとりの自信につながる点も評価できるとのこと。

「ビジネス文書やリストを手早くきれいに作成できることで先輩から評価してもらえますし、新しく覚える仕事に集中することもできます。それと、パソコンが苦手な人にとってMOS試験が大きな負担にならない点も良いと思います。ハードルがそこまで高くないので、内定期間に集中して勉強でき、習得した内容は実務にすぐさま活かされますので」

会社に対策テキスト代と受験料を負担して内定者にスキルを磨いてもらう。これはいわば“未来への投資”と言えます。しかし、社会人になる前につまずきの要素を少しでも減らして、自信を持って新しい環境に飛び込んでほしいと考えている同社では、この先必ず実になる投資だと考えているとのことでした。

### 社員一人ひとりに合わせたキャリア構築

—— 学びに対して貪欲であるために

今後の人材研修の展望としては、階層別研修を考えていきたいとのこと。

「これまでは、必要に応じて研修を行ってきました。新卒入社した社員も増えてきたこともあり、今後は彼らが将来のキャリアビジョンを描きやすいなかたちでの育成研修を行っていきたいと考えています。内容は、パソコンスキル以外にも、その他のビジネススキルを含む複合的な内容でのプログラムを検討しています。そして、この階層別研修の具体化と併せ、内定者研修でのMOS試験は継続していくつもりです」

JCSの社員は学びに対して貪欲で、真面目に取り組む人が多いと言います。MOS試験の導入は、そうした環境で切磋琢磨していくことになる内定者にとっても、会社にとっても双方に“良い投資”となっているようです。